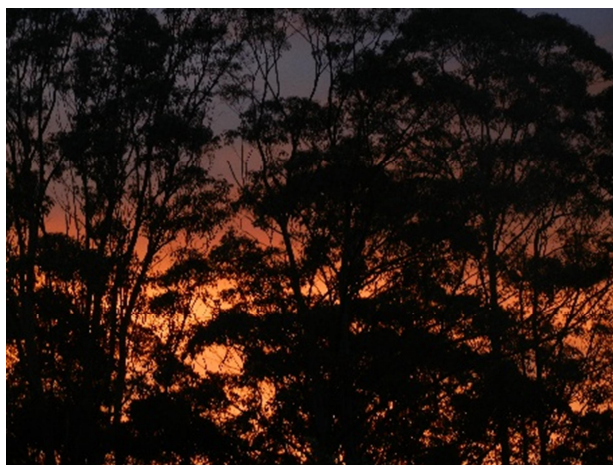


オーストラリアで学んだもの

藍住中学校 山田 愛莉奈

私はオーストラリアの募集届を出す前に知人から、オーストラリアの空の青さや、ホームステイが出来ることの特別感を聞きました。オーストラリアの空は日本と違う濃い青さであること、ホームステイは普通の海外旅行とは違って、英語を話す機会が多くなり、生活に直接触れあえるため、その国の文化を理解するのに、とてもいい経験になると教えてもらいました。この話を聞いて、『日本とは違う国』を見てみたい、と思い、オーストラリア海外派遣事業への参加を決意しました。面接のときは、とても緊張したけど、自分の思ったことをうまく話せたので、安心しました。合格通知が来たときは、とってもうれしかったです。

初めての長期フライトへの緊張と、研修への期待で、あまり眠れなかったけど、オーストラリアの朝焼けを飛行機の中で見たとき、「オーストラリアに来たんだ!」と感じました。それまでは、オーストラリアに向かっているという実感が全くなかったのが、日本と違う空の色を見て、ようやく実感がわきました。



聞いていた通り、オーストラリアの空は、とても濃い青で、日本の空とは全然違ってました。中でも、一番感動したのが、ホストファミリーとビーチに行った後に見た夕焼けです。ビーチではマンゴーアイスを買ってもらい、夕日を見ながら食べたのですが、シングル



なのに想像以上の特大のアイスで、ファミリーと談笑をしながら食べたことも相まって、私の心に強く残ったのだと思います。またオーストラリアに行く機会があったらもう一度行って、アイスを食べながら夕日を見たい思い出の場所です。

実際にホームステイをしてみて、「外国では本当に英語を話すんだ〜」と実感している時間はなくて、集中していな

ければすぐに話置いて行かれるような感じで、ごはんの時間はいつも注意深く話の内容を聞いていました。ドライブの時など、景色を楽しんでいると、「日本にはこんなお店はある

の？」「日本にあるお店の名前を教えて？」など、質問の嵐です。最初の方は速くて何を言っているのか聞き取れませんでした。一緒に過ごすうちに、だんだんと聞き取れるようになりました。

また、家では自分たちも一緒にお昼ご飯を作るので、英語で言われる手順を相手のジェスチャーや目の向きで、物を置いてある場所や、やり方を頑張って読み取ろうとしました。ホストファミリーとの思い出の中で一番驚いたことは、夜に日本語を勉強していたことです。

「日本語を教えて」と言われ、「すし」というひらがなを教えました。すごく上手に書くことが出来ていて、とてもびっくりしました。サッカーを見に行ったとき、ホストファミリーの友達のお父さんが「日本語は少ししゃべれる」と教えてくれて、みんなで日本語の「大丈夫」という言葉の意味と発音を練習しました。最後の平日の夕食の後にマジックをしてもらっていて、ルールを説明されるとき、私は全然わからなくて、固まってしまっていました。その時に、ホストファミリーのみんなが「大丈夫！」と言ってくれて、気が楽になりました。

今まで、私は自分の英語が現地の人に通用するのかわからなかったし、自分の英語力では到底通用しないだろうと思って、ホストファミリーのみんなと話すのが怖かったけど、私の話す英語をうなづきながら真剣に聞いてくれたのがとてもうれしく、どんどん話しかけられるようになれました。ディズニーの好きな映画が一緒だった時、「どんなところが好きなの？」「いつくらいから好きになったの？」とか、たくさん話すことが出来ました。

今回初めて私の英語を現地の人に聞いてもらって、自分の質問に対して笑顔で返してくれたり、「大丈夫だよ」と日本語で言ってくれたりして、自分の英語に自信が持てたし、現地の人に自分の英語が伝わる楽しさを感じることが出来ました。私が今回の研修で学んだ一番大切なことは、英語を間違ってもいいから、どんどん話しかける、ということです。話しかけないと、英語が伝わる楽しさを実感することが出来ないし、『自分の英語は伝わらなかった』と、悪いことしか残らなかったと思います。現地の人にたくさん話しかけて、よかったと思っています。